

令和4年度 第1回四街道市指定管理者選定評価委員会
(福祉施設等合議体) 会議概要

開催日時	令和4年8月3日(水) 9:00~17:10
開催場所	四街道市役所 分館2階 入札室
出席委員	石村委員(会長)、森委員(副会長)、緒方委員、古川委員、川上委員
欠席委員	なし
事務局	契約課: 只野課長、黒川課長補佐、田中係長、橋本主事
説明者	社会福祉課: 渡辺課長、善塔主事、北村主事 子育て支援課: 笠松課長、能勢課長補佐 障害者支援課: 大手課長、安永課長補佐、宮内主査補 地域振興財団職員 4人 社会福祉協議会職員 6人
開催形態	公開
傍聴者	0人

会議概要

(施設視察)

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 諮問
- 4 市長あいさつ
- 5 議事録署名人の選出(森委員、古川委員を選出)
- 6 議題
令和3年度に実施された指定管理者による施設管理状況の評価
①四街道市国民保養センター鹿島荘
②四街道市総合福祉センター及び四街道市南部総合福祉センターわろうべの里
③四街道市福祉作業所
- 7 答申(指定管理者評価結果通知書を添付)
- 8 その他
- 9 閉会

議題 令和3年度に実施された指定管理者による施設管理状況の評価

①四街道市国民保養センター鹿島荘

社会福祉課:(資料説明)

森 委 員:資料の事業報告書について、9月までの前期分と年度を通してのものが

ついているのはなぜなのか。

社会福祉課：令和3年度の9月30日で一度、指定管理の期間が終了したので、その期間内で事業報告書を提出いただき、それとは別に年度を通しての事業報告書を掲載している。

森 委 員：そうであればその旨を記載願いたい。

ストレッチ・ヨガ教室の参加延べ人数について、資料23ページは1,156人、決算書6ページは526人で数字が異なっている。おそらく23ページの方は通年の人数が入っているのではないかと思う。両者で整合性の取れた資料を作成願いたい。

本日見学で伺った際にも公民館的に利用している人が多いと感じるので、施設の使い方について指定管理者の考え方を改めていただけないか、所管課から提案いただければと思う。

毎年1,200万円程度の支出があり、新しいごみ処理施設ができていない状況が続くと、将来の損失が大きくなる可能性がある。所管課から改善に向けた行動をお願いしたい。

緒方委員：現状はカラオケやゲームをする場所になってしまっているが、そういったことをするのであれば公民館を活用すれば良いのではないかと考える。また、今後の施設整備等の可能性に向け、取り急ぎ不利益になる部分を整理した方が良いと思う。

石村会長：評価の内容については問題ないか。

緒方委員：問題ない。

川上委員：評価については妥当だと認識している。諸問題あるかと思うが、運営するうえでは、サービスの質の向上と効率的、効果的な運営を図っていただきたい。

古川委員：収入の部の実施事業収入について、ヨガやカラオケやストレッチをニーズに合わせて開催回数を増やしたことで収入が増えているというのが、コロナ禍においても努力されていると感じる。施設はかなり老朽化していて維持費にかなりの費用がかかっているというのが資料からも見て取れる。今後に向けての計画は、利用者の声を伺いながら検討されてはいかがかと思う。

石村会長：評価は、所管課と指定管理者の評価が一致しているので妥当なのだろうと感じる。1か月間休館があったため、その間の事業費はその分少なくなるのではないかと思うが、休館に際して対応は変えているのか。

社会福祉課：33ページを参照願いたい。9月1日～9月30日の臨時休館に伴い、収入の部の精算額にある68万6,681円分を不用になった額として指定管理者から市へ戻入している。

古川委員：資料にはイベント等の参加人数は示してあるが、どこから来ている人な

のか記録はあるのか。地域福祉の観点からは、施設がなくなった際にその人たちの居場所をつくる必要があると思うが、地域ごとに集計しているか。

地域振興財団：具体的に集計していないが、みそら地区の方の利用者が中心になっている。利用者がどこから来ているのかのデータも必要になるかと思うので、記録していきたい。

森 委 員：個人情報にならない程度に、地区区分だけでも記録されたらよいと思う。

古川 委 員：アンケートの集計の時などに書いてもらえたらよいのではないか。

緒方 委 員：カラオケが好きな方、将棋が好きな方、体操が好きな方など部門ごとにデータを持っていていただいて、電話やダイレクトメール等でアプローチするなど活用いただきたい。利用者へのアプローチは現在どのように行っているか。

地域振興財団：現在の施設利用は特定の団体が占めており、最も利用の多いカラオケも月のほとんどが特定の団体で埋まっているのが現状である。囲碁将棋、三味線等日々活動しているサークルも固定されている状況。今まで利用いただいていない方にアプローチをかけるのも必要かと思うが、そうすることで今利用している団体が使用しづらくなってしまふおそれもあるので、その点については考えていきたい。

緒方 委 員：現在無料の利用者が多いかと思うので、経営的に回らなくなるような運営を検討願いたい。

石村 会 長：他に意見はあるか。なければ、四街道市国民保養センター鹿島荘の指定管理者の評価に関する質疑を終了する。

②四街道市総合福祉センター及び四街道市南部総合福祉センターわろうべの里

社会福祉課、子育て支援課：(資料説明)

森 委 員：総合福祉センターは整然としていて職員の方もきちんと対応されている。懸案事項として、入浴施設が使われていないことがある。風呂釜が壊れて修理に費用がかかるので使用を中止しているとのことだが、部屋として活用するなど検討願いたい。2階にある図書室について、いつ行っても空いていてもったいないと感じる。有効活用願いたい。

わろうべの里について、施設がきれいで気持ちよく使われていると感じる。現在は高齢の利用者があまりいないが、これからまち自体が高齢化していき、そういった利用者も増えるかと思う。現在、包括支援センターの相談窓口がオープンになりすぎているので、パネルで区切ったり、場所を変える等の工夫をしてはいかかと思う。

審査資料について、個人的な感想だが、全体的に指定管理者の評価が施

設所管課の評価に比較して甘いと感じる。

緒方委員：総合福祉センターの窓口対応について、施設を利用する際にアルコール消毒セット等を渡してくれるときと渡してくれないときがある。対応を一元化していただきたい。職員から声かけをしていただくことを希望する。

川上委員：質問2点、感想1点。5ページの支出の部について、令和3年度の人件費が総額で150万円程度増えたというのは昨年度から開館日が増えたのが原因とのことだが、2年度は元年度と同水準になっている。元年度と3年度で異なるのには、ほかに要因はあるのか。

11ページ(6)利用の公平性について、誰もが公平に利用できるよう努めたとのことだが、定期利用団体向けにアンケートを取ったという内容になっている。定期利用団体と一般利用団体がある中でなぜ定期利用団体向けにのみ行ったのか。

甘い評価も見受けられると言われていたが、13ページ4の施設運営について、(1)必須事業の利用者ニーズ把握のためにアンケートを実施してサービスの向上に努めたということや、(2)自主事業の新たな利用者の発掘や単発講座の実施等、地道な努力も伺えるので、個別項目としては、評価の判定基準でいうところのAの内容になるのではないかと思うので、この2項目はB評価ではなくA評価にしても良いのではないかと思った。

社会福祉協議会：1個目の質問について、2～3年度にかけて支出が大きく変化した理由は、正規職員の異動による差額と同一賃金、同一労働の方針に基づき、臨時職員に際しても処遇改善として賞与を支給することとなったためである。長く働いている職員もいるので、雇用の安定等に向けて増額した。

森委員：臨時職員は何人いるのか。

社会福祉協議会：総合福祉センターは児童厚生員5人、受付3人、施設管理1人の合計9人となっている。

森委員：年2回の賞与があるのか。

社会福祉協議会：賞与を割り返して時給換算しているもので、回数を設けているものではない。

社会福祉協議会：2点目の質問であるアンケートについて、日頃付き合いの多い定期利用団体を対象に実施してしまい、一般団体まで行き届かなかったのは反省すべき点であるため、今後は幅広くアンケートの実施をして利用者の皆様の意見を取り入れていきたい。評価に対するご意見については、指定管理者としてA評価をつけるのは難しいと考えている。自分たちとしても力を入れたところだと思うので、次回以降の評価の方法について再度研鑽したいと思う。

石村会長：施設所管課から評価については何かあるか。

社会福祉課：指定管理者がA評価としているものについても、所管課としては厳しい目で見ているのでA評価はつけていない。A評価に近いのではないかとご指摘いただいたものについては、指定管理者と話し合って所管課でも検討させていただきたい。

古川委員：施設の見学で、ふだん利用できない2階等の様子が見られたのでよかった。総合福祉センターもわろうべの里もいつ行っても職員の方の対応が良く、掃除も行き届いており、とても心地良い空間だと思う。施設は人が大事だと思うので、そこはA評価でも良いのではないかと思った。SNSやWeb等活用していただいていることで、若い人にも情報が行き届いており、高校生が夜遅くまで利用する様子が見られるなど、地域が活性化していると感じる。Webでの利用受け付けシステムなどがあると便利だと思う。コロナ禍でも開館していたので、不安を抱える子育て中の親や子どもたちにも有意義な場所になっていると思う。

石村会長：3ページ目に新型コロナウイルス感染症の影響で20時以降閉館としたことや、1か月間臨時休館があった旨の記載があるが、予算の面で返金または減額を受けたのはいくらか教えていただきたい。

社会福祉協議会：この資料には直接的に減額の表記はないが、実施すべき事業が実施できなかった132,081円分を市に返還している。ただ、変更契約をして指定管理料をその分低く変更しているの、最終的に差し引きはゼロになっている。返還分の内訳は、児童センターで講師を招いて行うべきだった事業の講師料である。

森委員：評価について。昨年度資料と比べてみると、同じ文章なのに評価が異なることがある。年によって評価内容と評価基準にばらつきがあるのは良くないと思うので、その点について改めて見直していただきたい。評価の総体としては、所管課がきちんと指導していて妥当ではないかと感じる。

石村会長：他に意見はあるか。なければ、四街道市総合福祉センター及び四街道市南部総合福祉センターわろうべの里の指定管理者の評価に関する質疑を終了する。

③四街道市福祉作業所

障害者支援課：(資料説明)

森委員：7月に施設に行ってみ学をしてきた。所長とも話し、昨年度から良い方向に変わって、すばらしい施設運営をしていると感じた。所長は障害者と接するのが初めてかと思うが、接する中でそのすばらしさに気付いた

のではないかと思います。利用者の顔つきも良く、施設もきれいになっており、気持ち良かった。現場サイドは十分活用しており、すばらしい施設になっているが、新しい利用者が来ないと将来閉園になってしまう。現在NPO法人の施設は、グループホームとセットで運営していることが多い。行政も、より大局的に将来を見据えていただきたい。

12ページ5. 作業以外の諸活動への支援について、地域の様々なニーズを受けて、小学生や不登校生、高齢者など誰でも気軽に立ち寄れる地域の人々の拠点になれるように考えていきたいという記載がある。理想としてはすばらしいが、実際は手が回らなくて難しいのではないかと思いますので、利用者を増やす方に力を入れた方が良いのではないかと思います。4ページの拠点・サービス間区分繰入金、27ページの収支状況報告にある拠点区分間繰入金支出について、令和元年度と2年度が200万円で3年度が360万円になっており増額しているが、この使途はどのようなものか。

社会福祉協議会：指定管理料の中から必要な事業は行っているうえで、余剰として積み上げてきたものを拠点区分間繰入金として使用している。

石村会長：拠点区分間繰入金の使途の内訳を確認したい。今はお手元に資料がないと見受けられるので、後日回答願いたい。

緒方委員：本日の評価についてはどうするか。

石村会長：監査は通っており、適正であるという前提で我々は評価せざるをえないので、今回はそのようにする。再度間違いないというのを確認願いたい。万が一全く異なっているという場合は、もう一度評価を行うということによろしいか。

事務局：所管課等と調整して後日回答する。

委員：(異議なし)

(※後日確認事項については委員に送付、確認済)

緒方委員：施設の雰囲気は非常に明るくなって良いものだと感じる。新しく入った利用者も所長に懐いている。苦労の積み重ねの成果だと感じる。利用者の年齢構成をみると75%程度が46～60歳で、高齢の方が多いので、若い方を入れて、将来のことも考えていただきたい。また、仕事を取って、利用者の給料の向上も目指していただきたい。

川上委員：3点質問。5ページの2 利用促進(1)利用状況に記載のある稼働率が100%であるという旨の記述の意味するところを教えてください。

15ページに7月15日に市議会議員10人、市役所職員5人とあり、14ページに4月9日に市議会議員が視察に訪れたとあるが、4月の人数は何人だったのか。また、視察後の感想や施設運営に関する役立つ意

見があったのか伺いたい。

社会福祉協議会：稼働率について、台風等で閉館する等もなく閉館がなかったので100%としている。議員の視察について、4月9日は9人が訪れた。7月15日は記載のとおり。

川上委員：市役所職員はどういった職員が立ち会ったのか。

障害者支援課：施設所管課である障害者支援課の職員が立ち会った。

社会福祉協議会：質問は、男女比について、第二福祉作業所の開設はいつからで何年目か、ボランティアとの交流について、障害者トイレを使っている人数、退所した人は別の施設に行っているのか、特別支援学校の卒業生が福祉作業所に行くコースがあるのかというものがあつた。男女比と年数については当時の数字をお伝えした。ボランティアとの交流は現在新型コロナウイルス感染症の影響で止まっている。障害者トイレを使っているのは1名。退所した人はNPO法人はちみつ等の施設に行っている。特別支援学校は高校1年生から受け入れを行っている。前期の実習生は来ていないが、夏に進路指導の先生と会う機会があるため、後期の受け入れについて話をしたいと思う。

川上委員：障害者支援課から議員にはどのような対応をしたのか。

障害者支援課：視察は改修工事の状況を確認したいということによるものだったので議員から要請はなかったが、作業所の作業量について心配されていたので、そこは問題ないという旨を話した。

古川委員：職員の対応がすばらしく、通っている方も嬉しそうだと感じた。若い年代の利用が増えていかない理由として、グループホームに入ってからや就労して以降のつながりが少ないということと、帰宅時間の延長ができないというものがあつたのを伺ったが、そういったサービスの改善の予定はあるのか。

障害者支援課：希望に応じてサービスの拡充は検討の余地があると思う。民間の事業所もあるので、市で実施する必要があるか検討する必要がある。

古川委員：大きな予算が動いているので、定員に近い人数利用ができるとよいかと思う。昨年、同じ場所に通いたいという利用者の気持ちがあるので、それを大事にして施設を維持していくという話を伺ったが、市が福祉作業所を運営するメリットはあるのか。

障害者支援課：福祉作業所が開設されたのが昭和55年で、当時障害者支援施設は少なかった。その頃と比べると、現在は民間の事業所も増えていて利用者の方が自分で事業所を選べるようになっている。市がいつまで稼働する必要があるのかなども考える必要がある。現在通っている方には配慮しながら、今後の施設の在り方は検討していきたい。

古川委員：施設はきれいにされていて、職員の方の対応も良いので、利用者が増え

ると良いと思う。

石村会長：民間の事業所でやっていることを公的機関でやらないとなると民間の施設に流れる傾向になると思う。それは新しい入所者を諦めることであり、閉鎖につながるということになってしまう。今後のことについて、改めて市長の意向を確認のうえ検討願いたい。

森委員：例えば一般競争入札をすれば、民間の事業所がやっているようなサービスができる業者が出てくる可能性もある。そういった選択肢があることも考えていただき、将来を見据えて慎重に検討いただきたい。個人的には、福祉作業所は残していただきたいと考えている。

福祉作業所の愛称を募集していたが、決まったのか。

社会福祉協議会：愛称は運営委員会で「ひまわりはうす」という名前に決定した。これから利用者とともにポロシャツをデザインしてPRをする。PRについては、ほかにも、利用者の描いた絵の展示等をふるさとまつりで行う予定。施設の認知度を高めていきたいと考えている。

石村会長：他に意見はあるか。なければ、四街道市福祉作業所の指定管理者の評価に関する質疑を終了する。

令和3年度に実施された指定管理者による施設管理状況の評価に係る答申（案）

①四街道市国民保養センター鹿島荘

事務局：（資料説明）

石村会長：事務局からの説明に対して意見等はあるか。なければ「令和3年度四街道市国民保養センター鹿島荘に係る指定管理者評価表」については原案のとおりと決定し答申する。

②四街道市総合福祉センター及び四街道市南部総合福祉センターわろうべの里

事務局：（資料説明）

石村会長：事務局からの説明に対して意見等はあるか。なければ「令和3年度四街道市総合福祉センター及び四街道市南部総合福祉センターわろうべの里に係る指定管理者評価表」については原案のとおりと決定し答申する。

③四街道市福祉作業所

事務局：（資料説明）

石村会長：事務局からの説明に対して意見等はあるか。なければ「令和3年度四街道市福祉作業所に係る指定管理者評価表」については原案のとおりと決定し答申する。

答申後、閉会